

#ここから! キャリアのヒント

日本女性学習財団では、女性のエンパワーメントをめざし、生涯にわたるキャリアデザインを男女共同参画の視点で支援する方を「(公財)日本女性学習財団キャリア支援デザイナー」として養成し、活動を支援しています。このコーナーでは、各地で活動するキャリア支援デザイナーが、キャリア形成や学びのヒントを発信します。



Vol.20 学びは女性のエンパワーメント!

東日本大震災直後の5月、もりおか女性センター主催「思いを力にかえる女性のためのエンパワーメント塾」で2年間学んだ修了生有志で学習グループ「エンパワーメント11(い)わて」を設立し、間もなく10年を迎えます。震災当時、私たちの多くは仕事をしており、被害が甚大だった沿岸地域での支援活動が難しいことから、現地に向かずに行える活動を行うことにしました。エンパワーメント塾で培った「学びを実践へ」を基に、設立後すぐに岩手県の復興基本計画へ意見を提出。同年から、災害とジェンダーや多様性、防災・復興と女性のエンパワーメントに関する講座を継続して開催し、出会った女性たちとのつながりが続いています。

震災後、被災の体験や復興に関するさまざまな調査報告がなされていましたが、女性を対象とした記録が見当たらないと感じ、ジェンダーを学んだ者として、岩手の女性たちの記録を残すことに取り組みました。2012年「東日本大震災における女性の経験に関するアンケート調査」、2014年「東日本大震災からの復興に関する女性アンケート調査」を実施。2度目の調査結果から、被災者であり支援者ともなった女性たちの「復興」に参画しようとする思いを感じましたが、復興に欠かせない「女性たちの声」をどう活かすのかという課題も改めて認識しました。震災から10年、その後の女性たちはどういう状況なのか、3度目の調査に向けて準備を行っています。

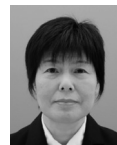


日本女性学習財団講師派遣事業にて、エンパワーメント11(い)わてが主催した「おとなの女性の学びとは」講座(2020年2月)

私自身は、国立女性教育会館において学びをキャリアへという「女性の社会的キャリア形成」に出会い、その後、財団のキャリア支援デザイナーや防災士、生涯学習士養成講座を経て、2020年4月に市の生涯学習講師に登録。地方に住む女性たちが生涯を通じて学ぶことでのエンパワーメントやキャリアへのきっかけづくりと、女性と防災をテーマに「学びを共有してつながる」活動を続けたいと思っています。

たかはし ふくこ
高橋 福子(第4期、岩手県)エンパワーメント11(い)わて代表、防災士

背中を押された1冊 『女たちが動く—東日本大震災と男女共同参画視点の支援』(生活思想社、2012)、『よりよく生き延びる—3.11と男女共同参画センター』(新潮社、2017)。どちらも女性たちの取り組みに胸が熱くなります。男女共同参画センターや防災の活動をしている方はぜひ一読を…!



きょうのキーワード

災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン

地方公共団体が災害対応を進める際の基本的な考え方や、平常時の備え、初動段階、避難生活、復旧・復興の各段階において男女共同参画の視点から取り組むべき事項をまとめたガイドライン(2020年5月、内閣府男女共同参画局より公表)。防災や減災、災害に強い社会の実現のためには、女性と男性が災害から受ける影響の違いなどに十分に配慮した災害対応が必須であるとし、7つの基本方針として、(1)平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興

の基盤となる(2)女性は防災・復興の「主体的な担い手」である(3)災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する(4)男女の人権を尊重して安全・安心を確保する(5)女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する(6)男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける(7)要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する)を挙げた。女性の視点からの空間配置図など、現場で活用できる資料もまとめてある。